

2026年(令和8年)7月31日 金曜日

経 済 4

恵那に空飛ぶクルマ飛行場

空飛ぶクルマの離着陸場として整備する計画地。恵那市山岡町(トランサム提供)



キャリア技研

3次元CAD(コンピューター利用設計システム)設計のキャリア技研(名古屋市中)は、恵那市山岡町の旧エアフィールド山岡に空飛ぶクルマが離着陸できる飛行場を整備する。約6億円を投じて本年度内に滑走路や管制塔を完成させ、「キャリア山岡トランサム場外飛行場」の名称で2027年度の開業を目指す。愛知県が空飛ぶクルマの離着陸場の整備を進める県営名古屋空港から、飛行機を使えば約12分(同社)で移動できる立地を生かし、実証実験の誘致や将来の路線網に組み入れたい考え。

(松浦健司)

実証実験の誘致目指す

計画地の旧エアフィールド山岡は、飛行クラブが活動拠点としていた飛行場跡地。4月に跡地利用権を取得した。航空宇宙基地の運用事業などを手がける関連会社のトランサム(恵那市)が新たな飛行場を運営する。

敷地面積は約4万7500平方メートル、全長約300メートル、幅約45メートルの舗装した滑走路や、3階建ての社屋兼管制塔、格納庫、駐車場などを整備する。夜間にも離着陸できるように照明設備の設置も検討する。

開業当初は、航空無線通信士を含め4〜6人を配置して、超軽量飛行機(ウルトラライトプレーン)を使ったパイロット育成のほか、ドローンの試験用地、ヘリコプターの保管事業などを手がける予定だ。

キャリア技研は今回の飛行場に加え、県内で空飛ぶクルマが離着陸できる飛行場の適地を探している。商用化を見越して飛行場を増やし、交通網づくりや有害鳥獣対策に取り組む構想を描く。

富田茂社長は、県工業会が開発し、02年に実験機が約4分間のフライトに成功した「ミラクルビークル」に触れ、「岐阜県は空飛ぶクルマの発祥の地だと思う。岐阜県内で空飛ぶクルマを活用し、いろいろなビジネスができるようになれば」と話す。

計画地は特別地方公共団体の鶴岡財産区が所有。恵那市が25年度に実施した公募型プロポーザルで同社の提案が採択され、26年4月から30年間賃借する。

滑走路や管制塔整備、来年度開業へ